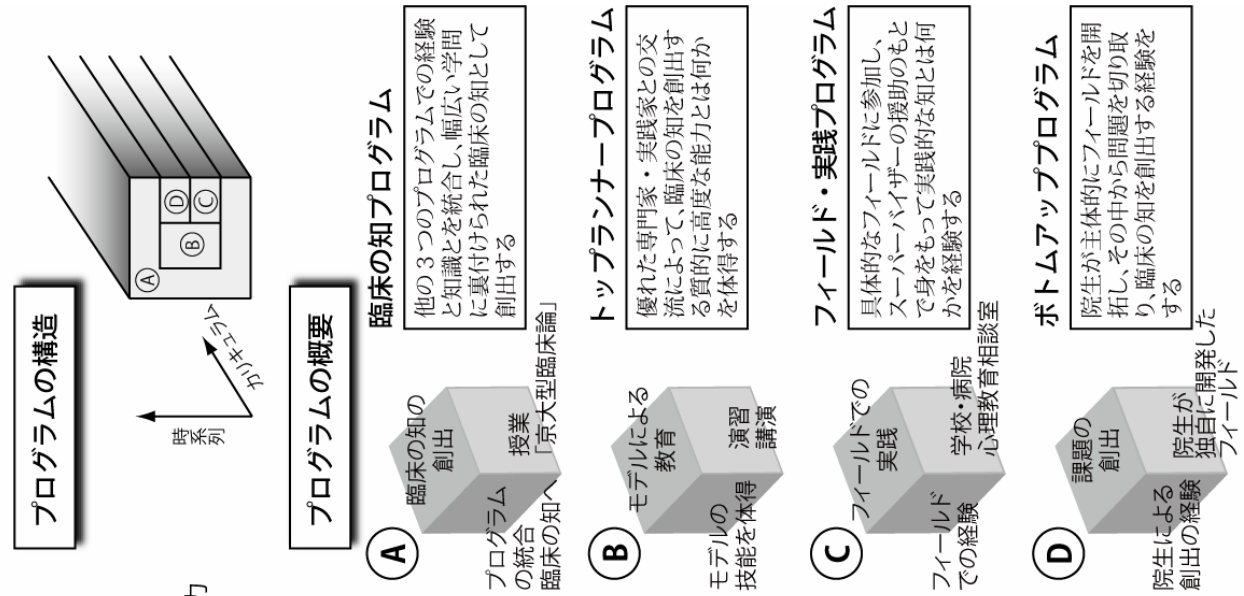


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	京都大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	臨床の知を創出する質的に高度な人材養成(京大型臨床の知創出プログラム)		
主たる研究科・専攻名	教育学研究科臨床教育学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科・専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 桑原 知子		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>本研究科・専攻の目的と今日の課題：教育学研究科の目的は「実践と研究の密接な連携のもとに、我が国における先端的な研究及び教育をつうじて有用な人材を育成し、学界並びに社会に貢献する高度な研究教育機関としての役割を果たすこと」である。この目的を実現するために、臨床教育学専攻では養成すべき人材の能力を明確にし、能力の養成に向けてカリキュラムを編成してきた。しかし、近年、社会が一層流動化し不定形になってきたことから、かつてのように比較的安定した社会を前提にした専門家としての能力を予め規定するようなことができなくなっている。しかも、本専攻は固有の名前をもった具体的な個人と向かい合い心理的教育的課題に応答する専門家を養成しており、この個人は流動的で不定形な社会を生きているところから、このような人間に向かい合うための能力を予め想定することも困難となっている。このような状況認識から、本専攻では既存の問題に適應することのできる能力だけではなく、錯綜した諸事象のなかから問題を問題として確定し、さらにその問題に具体的に創造的に対応できるメタレベルの能力の養成、「臨床の知」を創出する質的に高度な人材の養成を目指してきた。</p> <p>教育プログラムの特徴：このような質的に高度な人材養成のためには、講義・演習形式による教育だけでは十分ではなく、院生が優れたモデルと出会うことで質的に高度な能力とは何かを体得・理解し、院生自身が具体的な現場のなかで自ら考察し実践する機会をもち、さらに複雑な事象を自ら問題として確定させ解決する経験をもって、実践的かつ学問的な「臨床の知」を創出する能力を身に付けることが必要である。以上のような理由から、本専攻のこれまでの実績と「魅力ある大学院教育」イニシアティブでの経験と成果をふまえ、次のような教育プログラムを構築する。(なお外国語教育についても、イニシアティブの経験をふまえ、さらに科目を新設し充実させる。)</p> <p>①臨床の知プログラム：以下の3つのプログラムを有機的に統合し、フィールドでの実践経験と心理学・教育学ならびに人間諸科学の理論とを、個々の院生が「臨床の知」として統合し発展させていくプログラムである。ここでは他のプログラムで習得した院生一人一人の技能や知識に配慮しつつ、その経験が「臨床の知」を創出する質的に高度な研究能力へと統合されることを目指す。[「京大型臨床論」など：概念図①参照]</p> <p>②トップランナープログラム：これは本学教員を中心として心理臨床・教育そして人間に関わる他分野における優れた専門家・実践家との交流プログラムである。ワークショップへの参加から実習・演習・見学まで様々な形態があるが、この交流は院生にとって「臨床の知」を創出する質的に高度な能力とはどのようなものであるかを知る機会となる。[「心理臨床学特論」など：概念図②参照]</p> <p>③フィールド・実践プログラム：本専攻が指定するフィールドに院生が参加し、現場で自ら実践する教育プログラムである。実践的な知とは何かを、相談室・学校・病院・地域など具体的なフィールドでの実践を通して学び、それをもとにスーパービジョンを受ける。[「心理教育相談室相談実習」など：概念図③参照]</p> <p>④ボトムアッププログラム：これは具体的なフィールドにおける問題発見と独創的取り組みの能力を開発するために、院生グループの自発的な研究プロジェクト構築を支援するプログラムである。具体的なフィールドを院生自らが発見し、そのなかで自ら知を創出する経験をもつことを目指す。[「研究開発コロキウム」：概念図④参照]</p> <p>このようにして、4つのプログラムを組み合わせることで「臨床の知」を創出し、院生の実践的な技量を高度化すると同時に研究能力を高度化し、学位論文作成までの教育プログラムを実質化する。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



臨床の知を創出する質的に高度な人材養成
— 京大臨床の知創出プログラム —

研究者養成
・高度な研究能力
・リーダーシップ
・国際的活躍

実践者養成
・クライアントとのコラボレート能力
・全体を捉え、自律的に対応する力
・臨床の場を作り、維持する力

- フィールドへ
- 海外の大学・研究所・学校現場など
 - 学校 福祉機関
 - 病院 家庭裁判所
 - 心理教育相談室
 - 生涯教育機関

「臨床の知」の創出

	質的に高度な研究者養成	質的に高度な実践者養成	臨床の知の創出	質的に高度な実践者養成	臨床実践指導者養成コース
博士 後期 課程 3年	心理臨床学 ①②③	臨床教育特論学 ①②③	① 心理教育相談室相談実習 ② インターカンファレンス ③ 心理臨床ケースカンファレンス ④ 臨床実践アフォーカンス ⑤ 臨床実践アフォーカンス	臨床教育特論学 ①②③	臨床実践指導者養成コース
博士 後期 課程 2年	京大創臨床論Ⅱ	臨床教育特論学 ①②③	学校・相談室などでの専門的知見を有する在職の社会人により、さらなる高度の専門的知識を養おうとする。	臨床教育特論学 ①②③	臨床実践指導者養成コース
博士 後期 課程 1年	京大創臨床論Ⅱ	臨床教育特論学 ①②③		臨床教育特論学 ①②③	臨床実践指導者養成コース
博士 前期 課程 2年	心理臨床学 ①②③	臨床教育特論学 ①②③		臨床教育特論学 ①②③	臨床実践指導者養成コース
博士 前期 課程 1年	心理臨床学 ①②③	臨床教育特論学 ①②③		臨床教育特論学 ①②③	臨床実践指導者養成コース

※ 外国語での教育は、外国人客員教授などによる講義、論文作成・発表に関する授業に加え、国際教育研究フロンティアという科目の新設など充実させる。

<採択理由>

本プログラムでは臨床の知の創出を意図し、実践と研究を密接に関連づけるという方針での人材育成を図っており、「臨床の知」、「トップランナー」、「フィールド・実践」、「ボトムアップ」の4つのプログラムを系統化し、構造化する視点は、大学院教育の実質化に寄与するものであり、これらの有機性の高いプログラムの提案は具体的で、成果が期待される。ただし、臨床の知の中味と、臨床教育学専攻としての教育学の意味については更なる具体性が求められる。また、教育科学専攻との関連の明確化が求められる。